



今年の『科学技術週間』の 都立産業技術高専の催し

都立産業技術高専

ものづくり工学科・吉田喜一

『科学技術週間』は、広く一般国民の関心と理解を深め科学技術の振興を図ることを趣旨として、各種の行事を集約的に実施する期間とされています。2009年度の『科学技術週間』は、4月13日(月)から4月19日(日)までの期間が予定されています。

東京都は青少年やその保護者等の都民への科学技術の普及及び啓発推進の必要性を認識して、各種『特別行事』を行います。4月18日(土)両国駅すぐそばの江戸東京博物館で、東京都全体の各種イベントを行います。

都立産業技術高専はここで午前、午後各種行事を行います。紙ブローメン、戻るカミヒコキ、フライングリング、ブローメン・紙トンボの製作教室を随時(これは私と私の研究室の学生が指導します)。パコカー(センサー搭載ロボットカー)等の製作教室を午前・

午後に行います。これらは小学生以上対象のイベントです。また操縦体験をして頂く『ロボット体験コーナー』も企画しています。

さらにロボカップジュニア(品川キャンパスの学生が世界大会で優勝しました)のデモ、かわさきロボットコンテストのデモも予定しています。いろいろなテレビで放送されたロボコンマシンを実際に見たりさわったりできます。

そして、昨年末から設計製作された荒川区(北区・足立区・若干の私立中学生を含む)の中学生ロボコンのエキシビジョンマッチも午後に行います。

これまで1月18日(日)航空高専で、2月8日(日)北区で、3月15日(日)荒川区産業展で中学生ロボコンが行われてきました。その最後のエキシビジョンマッチを午後江戸東京博物館で行

います。また、航空高専の学生が開発し、現在地球を周回している超小型人工衛星関係の展示もします。各種テレビ、新聞が取材に来ます。是非おいで

ください。南千住の方(特に汐入の方)は水神大橋を渡った所にリハビリセンターがあります。その前から両国行きのバスが出ています。本数は少ないですが30分かかるので是非お

出てください。



東京〜九州 消える 「寝台特急」乗車記②

今回は、本紙・前号でお知らせの通り、先日惜しまれつつも廃止になった、九州〜東京のブルートレインの乗車記をお話しします。(乗車日・平成20年9月16日、上り列車・熊本〜東京)

私が乗車した東京行きは「はやぶさ号」は、熊本駅を午後3時57分、定刻の出発です。これから約18時間・1300キロ、遙かなる旅が始まりました。古びた車内には「タタン、タタン」という単調な走行音、そして時折「ピョー」と響く機関車の警笛が哀愁をそそります。車内はがら空きで、他に数人しか乗っていません(「だから廃止になってしまったのでしょうか?」。私の後ろのボックスには、バナナをお裾分けしてくれた一人のおばさんと、「ブルトレに乗ってみたいかった」という、東京に遊びに行く九州の大学生がくつろいでいます。そして私のボックスには、お爺さんが一人で乗っていました。お爺さんは天草出身で、現在住む神奈川県と熊本の間を数え切れないくらい寝台特急で行き来したそうです。定年退職前に勤めていた会社のことや、若い頃の思い出など、お話に興味の尽きることはありませんでした。それから私に、ビールに加え、おつまみのちくわまでお裾分けして頂き、乾杯しました。これから一晩を共に過ごす、車内で出会った人々と気軽に話せるのが、新幹線や航空機ではまず味わえない、寝台特急の「人間味あふれるところ」だと実感しました。

九州の出口・門司駅では、大分駅から走ってくる「富士号」を後ろに連結します。作業の間に、駅の売店で飲み物やおつまみを仕入れてお

きます。向かいのお爺さんと飲むための芋焼酎のカップも…。門司駅を発車した列車は、すぐ関門トンネルをくぐり、本州に入ります。下関駅発車後、すっかり日が暮れた山口県内で車内の明かりは落とされ、就寝の時間です。浴衣を着てカーテンを引くと、ほろ酔い気分だったので、すぐに眠ってしまいました。

翌朝、目を覚ますと列車は静岡県内を走っていました。やがて右側の駿河湾越しに、うっすらと富士山が見えてきました。この景色はすぐに東名高速に遮られてしまいましたが、10分ぐらいすると今度は車窓左側に、さつきよりもっと大きな富士山が姿を現しました。「はやぶさ・富士号」から眺める雄大な富士山は、明るい時間を走る上り列車の、しかも天気の良い日だけのお楽しみでした。

熱海駅で、向かいのお爺さんは乗換のため、挨拶を交わして降りていきました。右側には再び海の景色が広がります。午前の柔らかな日差しを受け、キラキラ輝く相模湾。このあたりまで来ると、もう東京に戻って来た感覚になってしまい、長かったはずの道中も意外と短く感じてしまうから不思議です。最後の停車駅・横浜を過ぎ、多摩川を渡ると東京都。浜松町駅を横に見る頃、懐かしいチャイム音の後に車内放送が流れてきました。「寝台特急、はやぶさ・富士号にご乗車下さいまして、ありがとうございます。あと5分で、終点・東京です…。ご案内は、JR西日本・下関乗務員センター、〇〇と××でした。はやぶさ・富士号、またのご乗車をお待ち申し上げまして、皆様とはお別れいたします。」

一期一会の出会いと、ゆったり流れる時間があつた、心に残る寝台特急の旅でした。ありがとうございました!

【消費生活アドバイザー】

佐藤 祐一郎

◆メガネのサトウ◆
南千住5丁目43の13【コッ通り】
TEL 03(3806)4930

★営業時間のご案内★

平日・土曜: AM10時〜PM7時30分

日曜・祝日: AM11時〜PM6時30分

◎4月は、毎週火曜日が休業日でございます。

